

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100068		
法人名	社会福祉法人 聖徳福祉会		
事業所名	グループホーム ひさご苑 2F		
所在地	島根県松江市佐田125		
自己評価作成日	平成27年1月3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江上市乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ四季の移り変わりも感じられ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子供たちの姿を目にする事が出来ます。誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会等で園児との交流も積極的にしています。又、当苑でも敬老会、クリスマス会等の恒例行事や季節の外出、入居者様の誕生月には、家族様を招いての食事会を行っています。特に、食事のメニューは入居者様や家族様にも大変好評です。入居者様との触れ合いを大切に、たくさん笑顔がみられる様に職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内の保育所、乳児院の知名度に比べ、グループホームの知名度はやや低い感じがあったが、近隣への地道な働き掛けが、段々と実を結びボランティアなど、地域との交流の機会が増しつつある。運営推進会議への公民館、町内会長、交番の所長など多くの地域の方々の参加があり、徘徊者の対応などいろいろな意見が聞かれるようになってきており、地域との関わりが深まってきていることも実感できてきている。重度の利用者も多く食事を一緒に作ることは難しくなつつあるが、ほとんどを目の前で手作りし、食事から季節感を感じ取ることができるような細やかな配慮もあり、利用者、家族関係者からも喜ばれている。経験の少ない職員も多いため、ケアの技術面やコミュニケーション能力アップなど、幅広い研修を行うことで、職員のレベルアップが利用者の生活の質の向上に繋がるように取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口や各ユニットの詰め所に、理念を掲示している。新人職員や理解できてない職員には、会議等に理念についての説明や話し合いの機会を設けている。	日頃から会議の場で取り上げ、全員で確認することで共有するように努めている。新人職員には、聞かれたら答えられるように、意識するように話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長、民生委員、公民館長に協力していただき、地域のイベント等の紹介お願いしている。苑の方でも、定期的に会報を作成して公民館、駐在所、包括、近隣住民に配布している。法人の行事に地域の方を招いたり、ボラお願いしている。	ひさご便りを年4回作成し近隣にポスティングしている。園の行事にはコーラスや大正琴のボランティアとの交流もあり、専門学校の学生を受け入れたり、地域との交流が広がりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として実習生や職場体験の受け入れは行っているが、地域の人々に向けて認知症のケアの啓発はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を検討しサービス向上に活かしている。	家族、地域関係者、行政、派出所からも参加があり開催。園の食事を提供したり、クリスマス会では手作りオードブルをつまみながら会議を行っている。派出所の職員からは徘徊への対応などの話があり、関係者を含め、地域支援へと繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員の実地指導を受け、改善するように努めている。又、市の職員と他施設の実習に参加したりしている。	市の担当職員の働き掛けで他施設との実習を通じた交流の場に参加する機会が持てている。外出や食事やレク活動の支援や、会議へ参加などを体験している。相談できるいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。研修に参加したり、会議でも拘束をしないケアを話し合っている。ホール入口の施錠に関しては、職員がホールを離れる際に、一時的に施錠している。入口に施錠についての、貼り紙をしている。	虐待を含めて研修会に参加している。内部での研修の際も言葉での拘束など事例に即した研修をするようにしている。2階建てのため2階の階段付近のみ施錠を行っている。2階非常口は手動可能な形に変更している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出来るだけ参加している。参加職員は、報告書を作成して会議等で説明して、知識の共有に努めている。事業所内でも虐待が見過ごされない様に注意をはらい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースが現在ない為、他職員は理解していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入退所や重度化、改定を含めた十分な説明を行い、理解、納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、毎月担当職員がお手紙を書いて出している。又、面会時に問いかけや相談、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	毎月請求書等を送る際、担当が日頃の様子を書き送っており、意見を聞く機会としている。面会の際には、行事の写真を渡したりして、要望等聞く機会を持つように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長(代表者)は、他事業所と兼務している為、当苑にほとんど来ない。職員の要望がある場合は、施設長が理事長の方に伝えられている。又、職員と一緒に理事長の方に話に行っている。	会議の場でも普段のケアの中でも言いやすい人に言うようにし、管理者から理事長に繋げるようにしている。管理者からは職員の増員を理事長に申し出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が職員の努力や実績、勤務状態を見て、理事長に報告している。それにより、理事長が職員を評価をしている。又、勤務態度に問題がある職員には、指導して改善を求めている。(理事長にも報告している)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修には、積極的に参加するようにしている。研修後には、研修報告書を作成して職員に観覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会には、参加している。研修等で知り合った他施設職員と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会って心身の状態や思いに耳を傾ける様にして安心感を得られる様にしている。又、必ず施設見学をしていただき施設の雰囲気を感じていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況、要望等をゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が利用者様、家族様に面接し本人や家族の思い、状況等を確認し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識をもち、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように、場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の気づきを伝え、家族様の思いにも耳を傾けている。本人様を支えて行けるように協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように面会の依頼をしている。又、馴染みのある場所にドライブし町の移り変わりを見て、懐かしい話をいただいている。家族様の同伴の声かけもしている。	面会の多い家族は決まっているため、便りの際行事案内をしたり、盆、正月の外出や外泊等呼びかけ、馴染みの生活が途切れないよう家族の協力を仰いでいる。誕生日には食事会に出かけたりして思い出ず機会を持つようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係、心身の状態等を把握し職員が情報を共有している。利用者様同士の関係が、上手くいくように職員がいろいろな場面、活動を通して調整役となって支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、情報提供を行っている。家族様にも電話等で様子を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族様から暮らしの希望、意向を確認している。日々の関わりの中でも、把握に努めている。	日頃の生活の中でやりたいこと、したいことを聞くようにしている。手芸の好きな方には職員の協力で取り組んだり、テラスの階段での訓練、保育所の子どもたちとのふれあいの場など、思いを聞くことで計画作成に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、フェースシート等記入してもらっている。本人様、家族様、親類の方にも暮らしぶりを聞き、情報提供も依頼して情報収集している。入所後もアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人一人の生活のリズム、心身の状態、有する力を行動等から把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様に、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させる様にしている。	3か月に1回のモニタリングを実施し、職員で意見を出し合い、介護計画の作成に繋げている。日頃の様子や記録については、難しさを感じており、今後研修で取り入れることとしている。	本人を取り巻くできるだけ多くの人の参加があり、介護計画の作成ができるように、多くの意見の把握に努めることでより良い計画作成に繋げていきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態変化は、記録して職員間で情報の共有を図り、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて通院等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の希望の応じて、訪問理美容サービス、近所の買い物等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望するかかりつけ医になっている。通院は、基本的に家族様であるが、急変時や状況により職員が付き添っている。	かかりつけ医が基本だが、近隣の2人のドクターの往診が月に2回行われている。緊急時や夜間対応については訪問看護ステーションと契約しており、指示を仰ぐ体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は在籍していない為、月一回の訪問看護契約を結び、本人様の体調変化に応じて状態を報告、相談し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して本人様に関する情報を提供している。職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方に事業所で出来る事を説明しており、本人様の状態を見ながら家族様や主治医と相談して、対応している。	入所の時点で特養の申し込みをしてもらうように話している。基本的には看取りは行わないこととしているが、重度になるに従い主治医との話し合いの機会を持つことで対応するようにしている。介護経験が少ない職員もいるため、今後の課題としている。	介護技術を含め、経験の浅い職員の研修内容を検討することで、今後に備えていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備してある。緊急時は、主治医や医療機関への連絡、報告をして指示を仰ぎ連絡網を通して職員間でも連絡を取り迅速に対応している。応急手当能力には、不安が残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防者の協力を待て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方等の訓練を定期的に行っている。消防担当(職員)が研修を受けたり【防火確認チェック表】を作成して職員が毎日確認している。※職員交代で研修参加している。	年2回同敷地内の保育所と合同で避難訓練を実施しており、消火器訓練も体験。原発対応のマニュアルも作成中。災害を受けにくい場所だが、裏に大きな池があるため、近隣と協力して事故がないように申し合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴を把握し、その人の人格を損なわない様になっている。その方の気持ちを尊重し介助する事を心がけている。	日頃の介護の場面で、部屋へのノック、布団のたたみ方、膝かけの使用、居室の換気など、誰にいい見られてもいいような対応がとれるように、その時に注意しあうこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活歴を把握し、利用者様の希望、関心、嗜好を見極め、それをレクリエーションや日常生活に活かすように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様は、午後の飲茶後にレクリエーションがあるのを把握しておられ毎日参加されている。気分が乗らない方は、声かけはするが気持ちを優先している、外出レクは、事前に日にちを伝え準備をお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を所持されて、自分で化粧される方もおられる。希望により近くの衣類店に買い物外出される方もいるため付き添っている。職員が、本人様希望により毛染めカラーする事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、お菓子作り、抹茶泡立て等。テーブル拭き等をお願いしている。食事中は、職員も同席してお話をしながら楽しく食事ができるようにしている。	食事のメニューから季節を感じてもらえるおように、普段の食事から、クリスマス、お正月、その他の行事食、おやつまで多くの物を手作りしている。出来栄も見事で、身近かで目で楽しむことができ、大変いい刺激となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分・食事摂取量を記録している。入浴後は必ず水分補給をしていただいている。食事は、個々の嗜好や状態を考慮し食べやすいように形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて、毎食後洗面所で歯磨きやうがいを、していただいている。自分で困難な方は職員が介助している。又、ガーゼや専用ティッシュを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らい誘導している。トイレでの排泄を尊重し、紙パンツやパット類も本人様にあっていのか職員間で情報交換している。	紙パンツやパットの利用者が大半で、声掛けで誘導するようにしている。できるだけ金額が増えなうように安売りを利用したりして、負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表、水分摂取表を記録し十分な水分補給を提供している。又、牛乳・ヨーグルト・果物等も工夫し、毎日の間食に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴日は決めている。利用者様の体調や気分に合わせて入って頂いている。	週に2回を確保しており、夏場はシャワー浴を加え3回に増やすようにしている。不快感がないように失敗があった時も利用できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スペースを尊重しながら、体調、希望等に考慮し、なるべく日中の活動を高める様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬・効能・副作用の説明等、ケースファイルに保管し、全職員にわかるようにしている。処方量変更時は、ケース記録や連絡ノートに記入し職員確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の皮むき、洗濯干しやたたみ、裁縫、掃除等の得意分野での力を発揮してもらっている。家族様にも、本人様の好物の差し入れをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク係りが外出・ドライブの計画をしている。担当職員が、買い物の付き添いや、頼まれ物の買い物や注文をしている。職員の人数、天候を考慮して、ホテルでの食事会や季節の外出等に行けるように努めている。	天候と体調を考慮してできるだけ多く外出の機会を持つようにしている。お弁当の日を作り、2Fはテラスで1Fは外で子どもたちを見ながら食事したり、誕生会には保育園に招かれたりと交流の機会も多い。誕生日外出も喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時や本人様から訴えがある場合家族様を交えて話し合いしている。所持される場合は、プライバシーを侵害すると理由から所持金の管理は、行ってないが、その際は家族様から了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば、取り次いでいる。希望により、便箋等の用意もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に合わせて、ホールの飾りつけをしている。廊下壁にも写真を貼り、入居者様同士や職員を交えて観覧出来るようにしている。居室の温度調節やカーテン等で光の調節している。	多くの時間を過ごすホールは窓からのロケーションがよく明るい空間になっている。多くの手芸作品が飾られたり、行事の写真も所せましかざられている。同じ建物を乳児院と共有しているので、いつも子供の声が聞こえいい刺激になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が居室の行き来が出来るように声かけしている。又、利用者様の人間関係に気を使い、席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れや使い慣れた家具を持ち込んでもらってる。本人様の大切な物等自由に持ち込んでもらっている。室内にも、外出やイベントでの写真を貼り面会時の話題になる様にしている。	使い慣れた物の持ち込みは積極的に薦めており、テレビや仏壇、家族の写真、テーブルなどで過ごしやすい部屋になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせ、物の配置に配慮したり、混乱されないよう必要な目印をつけ環境面で工夫している。		